

失速が懸念されるドイツ経済

ドイツ連邦銀行 景気後退に陥る可能性を警告。財政出動が求められるか

- ▶ 米中貿易摩擦に端を発した世界景気の不透明感などの影響が、欧州の経済大国ドイツにも波及。
- ▶ ドイツ連邦銀行は月次報告書において7~9月期もマイナス成長となり景気後退に陥る可能性を警告。
- ▶ 財政の健全性を重んじるドイツが、適切な時期を見極め財政出動を行うか否かが注目される。

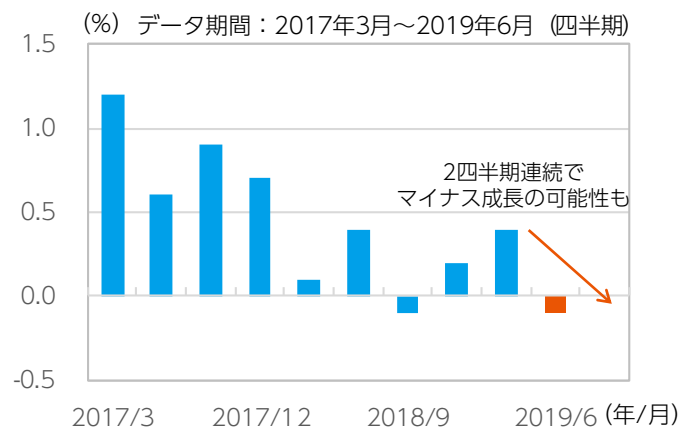
米中貿易摩擦をめぐる世界景気の不透明感に加え、英国が合意なき欧州連合（EU）離脱（ブレグジット）に踏み切る可能性が濃厚となるなか、これらの影響が欧州最大の経済大国であるドイツにも波及しつつあるようです。

2019年4~6月期の実質国内総生産（GDP：速報値）は前期比マイナス0.1%となり、3四半期ぶりのマイナス成長となりました（図表1）。また、8月19日にドイツ連邦銀行（中央銀行）が公表した月次報告書では、7~9月期に2四半期連続のマイナス成長となり景気後退（リセッション）に陥る可能性があるとして警告しています。ドイツは欧州のGDPの約20%*を占めることから、ドイツ経済の減速は欧州経済に影響を及ぼすことも懸念されています。ドイツは、GDPに占める経常黒字の割合が約7.4%*と他の先進諸国と比べても高い国です。また、同国の輸出の中心である製造業が国内産業の中心であり、経済成長を支えているため他の欧州諸国に比べ、米中貿易摩擦の影響を大きく受けていると考えられます（図表2）。

欧州中央銀行（ECB）は欧州経済の景気下支えのため、市場では9月12日の理事会において追加の利下げや量的緩和政策の再開などのさらなる追加緩和に踏み切るものと見られています。しかし金利はすでに十分に低く、利下げの効果は限定的であるという見方から、国内外からはドイツ政府に財政出動を求める声があるようです。

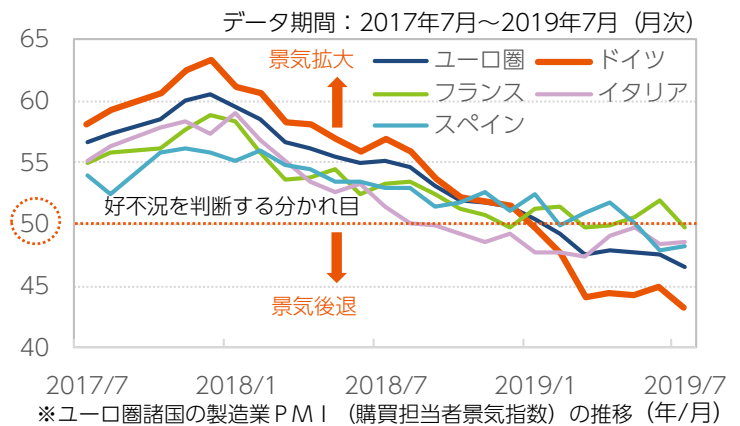
* IMF データ（2018年時点）

図表1：4~6月期のGDPは3四半期ぶりのマイナス



※ドイツGDPの推移

図表2：他国に比べドイツの製造業は落ち込みが顕著



※ユーロ圏諸国の製造業PMI（購買担当者景気指数）の推移（年/月）

ドイツのGDPに対する政府債務残高は約60%*であり、他の欧州諸国と比べても低いことから財政出動の余力は大きいと考えられます。メルケル首相は「困難な局面に向かっている」との認識を示し、ショルツ財務相は「500億ユーロの追加支出が可能」と示唆していることから、両氏は厳しい現状を認識したうえで財政出動も厭わない考えを示しています。今後は、財政の健全性を重んじる欧州の経済大国ドイツが、適切な時期を見極め財政出動するか否かに注目が集まりそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>